

議事概要

会議の名称	令和3年度第1回三田市総合教育会議
開催の日時	令和3年4月9日（金）14時00分～15時30分
開催の場所	三田市役所南分館6F 601会議室
出席した委員の氏名	森哲男市長、鹿嶽昌功教育長、吉田礼子教育委員、三木尚美教育委員、中上之仁教育委員、大野裕己教育委員
出席した職員の職及び氏名	〈事務局〉 岸本子ども・未来部長、西垣戸子育て応援室長、松本幼児教育振興課長、久後幼児教育振興課参事、増田幼児教育振興課係長、横溝子ども未来室長、杉山すすく子育て課長、田中すすく子育て課係長、松下学校教育部長、外岡学校教育部次長、浅野教育総務課長、上野教育総務課担当課長 松田教育総務課指導主事、山本学校教育課長
傍聴人の人数	5名
議題	<p>(1) 協議事項</p> <p>①三田市立幼稚園の再編について</p> <p>(ア) 少子高齢化が進む農村地域での子育て環境のあり方について</p> <p>(イ) 当面の進め方について</p> <p>(2) 報告事項</p> <p>①三田市立学校再編計画等の取組状況（経過）について</p> <p>(ア) 上野台・八景中学校再編地域協議会の状況</p> <p>上野台・八景中学校再編地域協議会中間まとめ</p> <p>(イ) 藍・長坂中学校区の状況</p> <p>②三田市立学校再編計画等の今後の進め方について</p>
会議の概要	審議事項について、委員会の意見あり（議事概要参照）
公開・非公開の区分	公開
使用した資料	<p>【資料1】三田市立幼稚園再編計画（案）説明会概要</p> <p>【資料2】令和2年度三田市立幼稚園区内就学前施設在籍状況</p> <p>【資料3】三田市立幼稚園園児数推移</p> <p>【資料4】現行の再編（案）に係る年次計画表</p> <p>【資料5】三田市立学校再編計画等の取組状況（経過）について</p>

	<p>【資料5-2】上野台・八景中学校再編地域協議会中間まとめ</p> <p>【資料6】三田市立学校再編計画等の今後の進め方について</p>
連絡先	<p>子ども・未来部 子ども未来室 すくすく子育て課 電話 (079) 559-5079</p>

## 会議経過

### 1. 開会

【横溝室長の司会により開会、配付資料の確認等】

【傍聴者5名】

【議事進行を森市長に交代】

【市長挨拶】

横溝室長：ただいまから令和3年度第1回三田市総合教育会議を開会させていただきます。皆様におかれましては、お忙しい中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。私、本日の司会を務めさせていただきます、子ども・未来部子ども未来室の横溝でございます。よろしくお願いいたします。

本日の総合教育会議につきましては、森市長並びに鹿嶽教育長及び4名の教育委員の皆様全員に御出席いただいておりますことをここで報告をさせていただきます。加えまして、本日の会議には事務局といたしまして、子ども・未来部及び教育委員会の事務局の職員が出席をしております。どうぞよろしくお願いいたします。また、傍聴の方が5人いらっしゃるということを御報告いたします。

それでは、ここで三田市総合教育会議の運営等に関する規定第4条第5項に基づき、会議の進行を森市長にお願いをいたします。市長、よろしくお願いいたします。

森市長：皆さん、こんにちは。今日は貴重な時間、御出席いただきましてどうもありがとうございます。昨日は、市内の小学校20校で入学式が、このコロナ禍の中で昨年もそうだったのですが、無事に挙行されたということに関係者の方に感謝を申し上げたいと思います。また保護者の方をはじめ、御家族の方も大変お喜びではないかと思います。コロナにつきましては、この数日、三田市でも数が増えてきているというような状況が続いており、いわゆる第4波というようなことが非常に危惧される状況であります。近く三田市でも始めさせていただきますが、ワクチン接種などを踏まえてこのコロナ禍の収束を一日も早く、そして何よりも来年の入学式はより多くの方々に子どもたちの未来を祝っていただきたいな、そういう気持ちでありますので、ぜひよろしくお願いいたします。総合教育会議は法律に基づきまして各自自治体で設置するものでありますが、いわゆる地域の民意あるいはまちづくりの観点を踏まえまして、教育行政をどう推進していくかということで、市長と教育委員会で対等な立場の中で協議、調整をさせていく場です。本日は、1つは幼稚園の再編の問題に絡みまして、人口減少が進んでおります農村地域の子育てのあり方を1つ大きな議題とさせていただきます。また、中学校の再編のいろんな地域の方々の協議の場の状況などを踏まえて御報告いただいた後、今後の進め方を御議論いただきたいと思っています。最後になりますが、人口減少の中で非常に厳

しい教育環境であります。どうか未来を見据えて子どもたちのためにいい教育環境を整えるというようなことを、ぜひ総合教育会議の場でしっかりと議論をしていただければと思いますので、どうか本日はよろしくお願ひいたします。

それでは早速、議事に移らせていただきたいと思います。まず協議事項につきましては、①「三田市立幼稚園の再編について」(ア)「少子高齢化が進む農村地域での子育て環境のあり方」につきまして、まずは事務局から説明をお願いしたいと思います。

## 2. 議題

### (1) 協議事項

#### ① 三田市立幼稚園の再編について

##### (ア) 少子高齢化が進む農村地域での子育て環境のあり方について

〈西垣戸室長から説明〉

森市長：事務局から関係資料1を中心に、ポイントとしては3つ説明がありました。1つは、幼稚園だけではなくて就学前のいろんな施設に通園している子どもたちのことも踏まえて、小学校と幼稚園との学びの連続性というものをどのように考えていくのかということ。2番目は、地域と幼稚園の関わり方をどのように考えていくかということ。そして3番目が、集団教育をしていく中でもきめ細やかな支援、特に支援が必要な子どもにとっての集団教育のあり方。それ以外も含めて、幼稚園の再編、特に農村地域での子育て環境のあり方についてそれぞれ意見をいただければ、あるいは事務局の説明につきましての質問も結構ですので、よろしくお願ひしたいと思います。

吉田教育委員：学びの連続性については、小1プロブレムの解消ということで二、三十年も前からずっと課題になっていて、当時は小学校1年生が机の上を飛び回っていたり、走り回っているような様子がテレビで放映されたりして社会問題みたいになって、小学校も幼稚園も神経を使って配慮をしていくようになりました。社会科と理科を統合して生活科にして、幼稚園からの発展が活かされるような教育課程を組んでいこうということになり、幼・小の連携プログラムというのをつくりまして、連携がスムーズにいくように配慮もされています。その頃よりも、最近は非常に小学校1年生も落ち着いて生活ができ、学校生活がスムーズにできるようになってきていると思います。今回は、農村部での特徴的な教育についての論議が必要かと思うのですが、農村部はニュータウンよりももっと豊かな幼児教育ができるのではないかと思います。というのは、水や土や木など実物を使って遊ぶことで原体験ができていくんですね。原体験が豊かな子ほど後延びすると言われていますが、幼稚園だけではなく家庭環境の中で、あるいは地域の中で

お祭りに参加したり、あるいは田植えにつき合ったり田んぼへ入ったりとか、いろんな体験を踏むことで後延びする子が育っていけると思います。今、社会が弱体化してきたと言われますが、親も育っていかないといけないし地域も育っていかないといけないときだと思います。農村部もニュータウンも幼稚園とか学校に頼るだけではなく地域の活性化といいますか、地域で豊かに自分たちが生きていくことで子どもが豊かに育っていきとを考えます。そして、その生き様を幼稚園や学校に示していただくことが双方の成長にプラスになると思っています。それは、大きな校区になっても変わらないことだと思います。そういう取り組みを学校や教育委員会から発信していったら安心していただけるし、確かな成長が保証され、次へのステップになるのではないかと思います。

久後参事：先ほどお話がありましたように、幼稚園としましても送り出す小学校の生活を見通しどのような経験をさせておくといいか、どのような力を身につけているといいかを考え、アプローチカリキュラムを作成し円滑な接続に向けて取り組んでいるところです。平成29年に改訂されました学習指導要領や幼稚園の教育要領等では、学びを縦につないでいくために異校種間での接続が重要視されています。そのためには複数の就学前施設から小学校に入学したときに経験や身につけている力にばらつきがないように、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を手がかりにして就学前教育・保育施設の横の連携をとりながら育みたい力を共有して小学校につないでいきたいと考えています。

中上教育委員：今、幼稚園についてはかなり農村部では人数が減っています。その中、やはり社会に出たら団体行動をしていかないといけないというところで、小さいときの教育というのは大切なものだと思います。その中で、幼稚園で譲り合い、助け合いをしていくというのは一定規模の人数がいなくてできないものなので、子ども同士いろいろ考えることがあると思います。どうしても少ないと偏った意見になってしまうので、子どもたちの遊び、考える力を育むというのは一定の人数がいると思います。やはり農村部ではかなり人が減ってくるのは仕方がないので、その中でどうやって地域を活性化するかということについても考えていかなければならないし、また幼稚園においても小規模になると親の負担がどうしてもかなり増えてきます。運動会にしろ、10人までで運動会をやるのでなくて、一定規模というのは大切だと思います。その中で、小学校との連携についても幼稚園が毎月のように各地域へ遊びに出かけて、川や山でいろんな遊びを体験することによって地域自体も活性化すると思うので、学校の見回りも含めてやっていければいいのではないかと思います。

大野教育委員：今、お二方から意見があったことと共通するところがあるかと思います。地域には小学校と幼稚園の間の円滑な接続というところ御懸念の動きもあると思いますし、そこは非常に大事なところだと思うのですが、先ほど来お話に出てきています学習指導要

領や教育要領は、子どもの資質・能力の確実な保障ということを行っていることになるので、その中でいくと知識、それから技能の習得はもちろん、切磋琢磨といった単に競争的ではなく、先ほど中上委員が言われたような、一緒に考えて物事を生み出す力を育てていく必要が出てくる。それも含めた子どもに資質・能力を保障しようということになってくると、原体験という部分を含めて人間関係をどうつくっていくかが大事になってくるので、一つの学年集団をそれなりの大きさにしていく部分が必要になってくるのかなと思います。そうした中で、学校としても、その努力を積み重ねているところなので、そういった意図をしっかりと地域にアピールすることをやってほしいと思います。あともう一つは、地域と幼稚園との交流という観点です。やはりそれぞれの地域において、近くに幼稚園があって交流していくという部分がこれまでであった。そこが困難になるのではないかという御懸念もあったと思うのですが、この部分においては縦につないで育てるということがある。幼稚園を越えたところの例えば中学校区単位、小学校単位で地域と学校群としっかりと連携していくということも、創造していく観点が必要になると思います。例えば、そういった中学校区でしっかりと連携を取ることで幅広い大人と子どもがつながる。幼小中連携というところもししっかりと持てていれば、大人と子どもの関わりとともに中学生が幼稚園児と交流するということが、お互いにとっては人間関係をつくっていくこともできる。こういう部分を開発することも大事なんじゃないかと思っています。あともう一つ、そこで大事になってくるのは、先ほど市長もおっしゃったように、全体として人口減となっていくので、農村部においては特に全体に少なくなっていくということがあるとすると、少し広い範囲でそういった中学校区単位での学校と一緒に地域も育つ、子どもも育つということをする中で、持続ということもできていくのではないのでしょうか。そういった持続的な枠組みでかかわりたい、皆さん無理をされることなく学校とかかわっていく、幼稚園とかかわっていくことで、創造的に学校、幼稚園、校園を支えるという取組も出てくるのかな。そういうところを、一つやはり子どもに響く取組を打って、できるだけ無理なく取り組んで、効果があったよねという効力感を持って先に進んでいくことも大事なのかなと思います。これは恐らく、コミュニティ・スクールにつながる考えかだと思います。答えが十分出ておりませんが、そういった新しい枠組みも含めて考えていく必要があるのかなというのが個人的な意見です。

山本課長：先ほど大野委員からお話があった、中学校区の、という話ですけれども、三田市の場合は8中学校区ごとに学校園所の連携活動を推進しております。この学校園所の連携といますのは、本当に公立小中幼だけではなく、私立の幼稚園も含めて中学校区ごとにまず教員間の連携を深める中で、子どもの交流だとか学びの連続性を意識した学習活動、教育課程の編成というあたりについても、できるだけ細かく取組を進めるようにしております。特に幼稚園の子と小学校の子たちが小学校で交流授業をしたりとか、あるいは

中学校区によりましては幼稚園と中学校の交流ということで、中学生が幼稚園に行って保育の学習を兼ねて交流をしたりとか、あるいは幼稚園の子が中学校に出向いてきて、中学校探検みたいな形で活動するようなことも比較的進んでいます。ただ、このコロナ禍でなかなかそういった子ども同士の交流が昨年度はうまく進まなかったところもありましたけれども、どの中学校区もそういったことを進めたいということで、今年度以降も計画を立てていって進めていこうとしているところです。

三木教育委員：私からは3番目にあります支援が必要な幼児に対して、これまでのようなきめ細やかな配慮は困難になるのではないかと御心配がおりということですが、一定の規模の園児が増えて集団になることで、やはり園も支援に関しましてはきちんと考えてくださると思います。私の考える幼児期の特別支援教育は、やはり人生を生きていく大きな流れの中で、早い段階でその子にどんな学びができるのかなとか、どんな経験をさせてあげられるのかなというところを考える必要があると思っています。日々の学びの中でその子に必要なきめ細やかな支援というのは、基本的にみんなと平等な学びになるように支援を意識することが必要になってきます。早い段階で支援の必要性に気づくことというのはすごく大事なことです。先生方も、この子にどんな支援がいるのか就学前にそれに気づくことで、小学校に上がったときに支援がスムーズに設定できるのか考えていくこともできますし、その子ども自身も自分の得意、不得意というところを学校に上がる前に気づくことで小学校に上がったときに学習に向けてもスムーズに行くのではないかとということもあります。また、発達障害のある子どもさんは特に自分自身で特性を知ることというのがすごく大事で、困っているよということも言えるというのはすごい大きな力になりますし、合理的配慮が必要な場合に自分から発信するということはすごく大事な力になってきます。それを、自分自身も周りの友達も早いうちから自然な形で気づくということが大事で、様々なタイプの子どもたちと触れ合う中で、いろんな人の多様性に気づくということが出来ますし、いろんな子どもたちの中でお互いを受け入れあったり、先ほど中上委員が言われましたけれども、障害があるなしは関係なく多様性を受け入れ合ったり許しあったりとか、一緒に成長していくことで困っている人に自然に手を差し伸べたりとか、本当に自然な感じで幅の広い豊かな心を持てる人に人間形成につながっていくんじゃないかなと思います。そのためには、やはりある程度の集団というのは大事で多様性のある子どもたちの中で、そういうものは身につけていくものかなというふうに考えています。

久後参事：先ほど委員からもお話がありましたように、現在公立幼稚園では、小規模なところもまた人数の多いところもあり、それぞれ支援が必要なお子さんの受け入れをしています。人数が多いことで支援が行き届かないといったようなことはないと考えています。人数が多い園であってもお子さんの必要な支援の量に応じて、必要であれば加配の先生を配

置するなど、その子に応じた支援ができるような体制を整え、また定期的に園内委員会を行い、一人一人のお子さんの支援の方向性や、具体的な支援の方法を職員で共有しながら進めているところです。先ほどもお話がありましたが、やはり幼少期から集団の中で多様な友達に出会うということはとても大切なことだと考えています。生活をともにする中で友達の得意とするところ、また苦手だと感じているところ、助けが必要なことを気づき、そういう部分を含めて互いに認め合いながら関係が築かれていく力を子どもたちは自然と身につけているように感じます。今後も職員の専門性を高めながら個に応じた支援ができるように、また集団の中で一人一人のよさが生かされるような、集団づくりに努め、子どもたちを育てていきたいと考えています。

鹿嶽教育長：1点目の地域との関係ですけれども、最初に事務局からありましたように、小学校の敷地内に幼稚園があったりということで、以前はその幼稚園から上がってくる子どもたちが全て小学校みたいな格好で、物理的なつながりは十分あったわけですが、現在は本当に農村部であったとしてもその地域で子育てをしないといけないという話の中で、多くのデータにもあるのですが3分の1ぐらいが認定こども園であったりほかの私立の幼稚園であったり保育所であったりということから上がってきている。必ず1対1になっているわけでもない中で、物理的なつながりよりも「学びの連続性」というか、つながりをどうするかということを実際に考えていかないといけない。その部分は、委員の皆さんもおっしゃっていましたが、三田市の中でも幼稚園と小学校のつながりというあたりはできている。また、中学校区単位でもやっているということで、地域の皆さん自身、いろんな心配はおありかと思えますけど、そういうことをもったときちっと説明していかないといけないと思っています。また、特別な支援が必要な子どもたちにつきましては、三木委員もおっしゃっていましたが、少ない中で他者とつながるのか、一定の規模の中で様々な多様性の中で自分自身を見つめるのか、支援が必要な子ども側から見ただけではなくて、ほかの子がその支援が必要な子どもに対してどのように接するかということも非常に大切な部分になってくると思います。そういった中でも、育ちというものは一定考える必要があるのかなと思います。当然、少人数で対応していただけたらきめ細かということはよく理解はできるんですけど、やはり子どもは集団の中で育っていくもの、自分自身が考えて、幼児期だとしても自分自身がどういうふうに行動したらいいのか、友達との遊びの中で自分自身に気づくというのは非常に大切だと思っています。そういった環境を農村部であったとしてもつくることのできるような形で進めるのが必要ではないかなと思っています。

森市長：それぞれ委員に農村地域の子育てのあり方について聞きましたが、この関係で何か意見がありませんか。(意見なし)

それでは今、各委員からいただいた御意見を踏まえまして、今後の具体策や地域の説明



に十分生かしながら計画づくりを進めさせていただきたいと思います。

(イ) 当面の進め方について

〈西垣戸室長から説明〉

三木教育委員：資料4の広野幼稚園の改築ということですが、新しくなるということですか。新しい幼稚園が新たに建つということでしょうか。

松本課長：これにつきましては、認定こども園化するにあたり、既存の施設の改築をするということで、新たなものを建てるということではありません。

三木教育委員：分かりました。私がちょっと思ったのは、新たにもし何か建てるようなことがある場合、ユニバーサルの意識をこれから持っていただきたいと思ひまして、後から変えらるとなるとすごくお金もかかりますし、ユニバーサルを意識したものというのはなかなか難しくなるのですね。その辺、何か新しい建物とかつくってくださるときに、ユニバーサルな社会に向けて意識をしていただきたいなと思ひました。お願いします。

森市長：改築ということですが、三木委員のできる限りユニバーサルな工夫をとということですがどうですか。

松本課長：今、委員御指摘のありました点につきましては、今後十分に取り入れながら進めていきたいと考えております。

森市長：そうしましたら、6月に向けて説明会ということも踏まえまして、今後できる限り丁寧な説明を行いながら、計画案に必要があれば修正も視野に入れながらまとめていただければと思ひますので、よろしくお願ひいたします。

(2) 報告事項

①三田市立学校再編計画等の取組状況について

(ア) 上野台・八景中学校再編地域協議会の状況

(イ) 藍・長坂中学校区の状況

②三田市立学校再編計画等の今後の進め方について

〈外岡次長から説明〉

吉田教育委員：私たちがこれまでに、小規模な中学校の子どもの問題というのを学習してきたことが幾つかあると思うのです。その中で、いじめとかが起きた場合に1クラスでどうしようも解決しにくい問題、一緒にいるだけで神経を使ってしまうということが思春期にはよくあることだと思います。そういった意味で、大分進んできたことをとてもうれしく思っているのですが、それでもこれからつくるわけですから1年や2年でできるわけではなくてとても大変で現実的に今、長坂と上野台の子どもたちは1クラスの中で生活して息詰まるような思いをしている子もいるかもしれないということをちょっと心配します。だから、そういった意味で今の1クラスでの教育課程のあり方とか、風通しのよい学校経営のあり方みたいなものを研究して、実際に具体的に取り組んでいかないといけないのかなと思いますし、部活の数の補完などいろんな部活が体験できるようなこともまだまだ考えていかないといけない、その統合までの課題というの、まだ年数が先ですのですごく心配しています。とにかく今、少ない人数の中で感じる子どもたちの閉塞感というものが、何とか早く取り除いてあげたいと思います。

山本課長：今、委員のお話がありましたように、子どもたちの閉塞感ということですが、確かに1クラスの子どもたちは学級が授業の部屋、休み時間、給食、掃除、朝から夕方までほぼ同じ空間で過ごすことになって、より閉塞感にさいなまれるようなこともあります。そこで一定の教室1つ、ホームルーム教室とまた別に逃げ場所ではないですけれども教室を設けて、1クラスだけれどもクラス的には2クラス使って、休憩時間や給食の時間を2部屋使いながら生活できるような、そんな工夫も少しずつ取り入れているようなところです。また、これからも研究を進めていきたいと思います。

中上教育委員：やはり、上野台・八景については、大分前に進んできているのかなと思います。ただ、どこにするかについては、できるだけ早く決めていただきたいと思います。年数がたつと、気持ちも多分変わってくるところもあると思います。それと同時に、藍・長坂中学校については、もともと長坂校区だったように思います。地域の年配者は多分一緒だと思うのですが、つつじが丘が新しくでき、もともとの経緯が分からないというところもあるかもしれないですが、やはりそこは丁寧にお話をしていただきたい。また吉田委員が言われたように、クラブでも個人競技ではなく団体競技ができるような環境をつくっていただいたほうが、学校は勉強ばかりをするところではなく社会での学び、または人と人のつながり、また考える力、どのように毎日学校を楽しく暮らしていくかというところもあると思うので、いろいろ事務局側で考えていただき、藍・長坂についても早く進めていただきたいと思います。

外岡次長：御意見ありがとうございます。実際、藍と長坂の経過については、一旦棚上げという

ような状況になっているところでございます。その中で、それでも聞き取りに入りますと、小規模化の課題というのは皆さん持っておられる状況であると理解をしております。その課題を、これからどのようにして解消していくのかといったところは、実際に地域の中で保護者なり地域の方々と幅広く選択肢であるとか、今の計画という内容にとらわれずにどのような方法がいいのかということを知り、そして、その段階から1つの考えをまとめていくようなことも必要ではないかということで、その動きをできるだけ早めにとれるように動いていきたいと考えます。地域の方々と保護者の方々と意見をまとめていくことになりますので、若干時間は要することになりますけれども、できる限りまとまるような意見がいただけたらと思っているところでございます。今後、取組を進めてまいります。

大野教育委員：私は、この問題と関わって2017年度と18年度、三田市の学校園のあり方の審議会に参加させていただいたという立場もありまして、ずっと関心を寄せていました。まず基本的に地域においては、再編、統廃合を考えるという問題は身を切られるような考えだと思いますし、中学校区で考えてみると、先生方は相当なご努力をされているということになります。先生方の人数が児童生徒数をベースとした学級数によって決められてくるというところがあるから、その中で子どもの育ちを中心に置いたことを考えるのが大事であろうと思います。審議会の議論の中でも、小規模化に伴って先生方の教科免許の問題もあれば、先ほど言及のあった部活の問題も出てくる。そうした中で、現状でも子どもが育っているわけです。そうすると、少しでも早く議論を進めていくことが大事なのではないかと。そうすると、藍・長坂でも、例えば校区単位で、現状の子どもの育ちについて、学校の中での子どもの育ちについて、先生方なり学校の頑張りもあるでしょうけれども、子どもさんたちにとってより望ましい環境とはということ、そこから今後のあり方・統合なりを考えていく議論を進めていただけたほうがいいのではないかとこの思いを持っております。

外岡次長：大野委員からいただいたように、それぞれの中学校区単位なりで考えを一定進められるようなことも含めて検討を進めてまいります。

三木教育委員：私は、皆さんの言われていたことと同じ意見です。子どもの立場にまず、一番に立つということがすごく大事なのかなと思います。こうしている間にも、先ほども言われましたけれども、どんどん成長して進んでいきますので、議論が進められている間にも卒業してしまう子どもたちもいますし、一番部活のこととかクラス替えのことは本当に多く言われているなということで、その困り感とか思いは多いのだなと思います。子どもたちの立場に立つと本当に部活とかの経験というのはとても大きなものだと思いますので、早く改善してほしいなという、もうちょっとスピード感がいるんじゃないか

なと思いました。

山本課長：部活動のことは、本当におっしゃるとおりだと思います。長坂中学校で言うと6部活、上野台中学校で言うと7部活になります。せめて、今ある部活の環境は維持しながら、部活動指導員とできるだけ人の配置も進められるところは進めながら努力はしています。あと、合同部活動という形で人数が少ないときには、上野台は八景中学校、長坂中学校であればけやき台中学校等と一緒にチームを組みながら、とにかく今いる子どもたちが、せめて今ある部活動の競技種目には参加していけるような環境を整えていけるように、これからも努力していきたいと思います。

鹿嶽教育長：小中学校の関係の再編については、3年前から取り組んでいる中で、委員の皆さんからも御意見がありましたけれども、なかなか進んでないという感が否めないのではないかなと、私も責任を感じているところです。上野台・八景については、一定中間まとめということでまとまってはきましたけれども、最終的に統合するというようなことになったとしても、先ほども意見がありましたけれども、長い道のりがあるわけで、すぐに新設校ができるわけではない。その間子どもたちは入学して卒業していくという中で、今いる子どもたちにどのような環境を与えるかを一番に考えていく必要もあると思っています。部活の話だったり免許外の話であったり、解決できるところは今の制度の中で解決できますけど、それ以外にも取り組めることは多々あると思いますので、そういったものを事務局とともに考えていく必要があるのではないかなと。藍・長坂につきましては、本当に申し訳ないと思っています。PTAの皆さんと様々な意見交換をさせていただいているところですが、もう少し具体の部分を進めていかないと、意見を聞くだけでは当然前に進んでこないということであるので、資料にもありますけども、早急に一定の方向を定めていきたいと思っています。委員からも御提案がございましたけれども、2つの中学校区をまとめてやっても、全く意見が違い進まないの、中学校区ごとに検討していく必要があるのかなと思っています。また3点目のその他の地域も様々ありますし、農村部も小学校についても児童数が減ってきているという状況をどうするかということもありますし、また一方ではニュータウンや街なかについても子どもたちの数が減ってきているというところ。これまで中学校のことばかりをやってきましたけれども、もっとそれ以外の部分の学校再編についても考えていかないといけないかなと。小学校は小学校同士、中学校は中学校同士といった同じ校種間の統合といったこともありますが、小中一貫校や別の枠組みというのも真剣に検討していかなければいけないと思っています。事務局にも指示していますが、他都市でも実際にうまくいっている例、またうまくいかなかった例もありますので、十分研究しながら選択肢の一つとして考えていくようにこれから取り組んでいかなければならないと思っています。

森市長：学校の再編ということにつきまして、今の取組状況と今後の進め方でしたが、資料6にもありますように、上野台中学校・八景中学校につきましては、それぞれの地域の理解を得られるようにさらに取組を進めていただきたい。また藍・長坂中学校区についても、教育長も言われましたが、従来の枠にとらわれずに幅広い意見等を進めて一定の方向を早急に進めていただきたいと思います。また、その他の学校区につきましては小学校の話も出ました。ニュータウンにつきましても、市としては今年度フラワータウンの再生計画を1年かけてつくりますが、地域の方々の御意見も踏まえまちづくりの観点も進めていきたいと思います。また市長としてもいろいろと声を聴くのですが、小中一貫校についても幅広い検討をしていただきたいと思います。委員の方々からスピード感と言われましたが、これは教育委員会だけの問題ではなくて、それをサポートする私の立場の部局も大いに御意見を伺いながらスピード感を持って、また丁寧に理解を深めていくということを一層進めていきたいと思いますので、今日いただきました意見を教育委員会と一緒に具体的な進めていきたいと思っています。

それでは、以上で本日予定しておりました議事は全て終了いたしました。

本日は、それぞれの委員の方から活発な御意見をいただきまして厚く感謝を申し上げます。初めの挨拶で申し上げましたが、この1年、教育現場はコロナ禍で大変だったと思います。また教育委員の方々におかれましては、子どものためにポストコロナをにらんだ教育について御指導いただければと思います。